

9月23日、長地小学校6年生4クラスおよそ110名の皆さんが諏訪市美術館に来てくれました！今回、6年生の皆さんに来館いただく前に、諏訪市美術館の広さと来館時の人数について、少し悩みました。



美術館前ではじめの会！



大きいねー！
触ってその質感を感じてみます。



近くで、遠くで。いろんなところから
作品を見てくれました。

ていました。雨上がりで足元が悪かったのですが、石彫班の方も楽しく見てくれたようです！児童の皆さんの感想には、「今まで美術館で見てきた作品とは少し違って『その人だけの世界』みたいなのがあってとても面白かった」、「小さなころからよく来た（石彫）公園でしたが、どうやって作られたかは考えたことはありませんでした」などがあり、よく考えながら見てくれていたことが伝わりました。今回は、鑑賞ファシリテーターに2名のボランティアさんがご協力くださいました。皆さん、ありがとうございました！

岡谷市立長地小学校6年生 来館 レポート

2016.9.23

事前に担当の先生と打ち合わせをするなかで、展示室が決して広くない諏訪市美術館に110名様一度には難しい、でも一度にいらっしゃるのは決定、というところで、どうしようか美術館内で検討。さらに、先生ともご相談させていただき、最終的に、諏訪市美術館と湖畔の石彫公園を、全体を半数ずつに分けて、交代しながら見てもらうようにしました。

美術館では、企画展「小杉小二郎展」と、常設の細川宗英作品の中から、2点についてお話ししながら鑑賞。石彫公園では、当館と先生とが話し合っ作製した特製のワークシートのクイズに答えるように鑑賞してもらうことにしました。

前日まで雨続きでどうなることかと思いましたが、当日は曇り！児童の皆さん、いかに日頃の行いが良いかがうかがえますねー！そして、石彫班と美術館班とに分かれて鑑賞。長地小学校は武蔵野美術大学の学生さんが作品を持参して対話型鑑賞をしたりする「旅するムサビ」も自主的に実施されている鑑賞先進校。美術館のマナーを守りながら熱心に見てくださいました。筆者は美術館内での小杉作品のファシリテーター（鑑賞の進行役）をしていたのですが、児童の皆さんは、画面をつぶさに見て、何が描かれているかしっかりと把握し、それらについて、時には疑問に思いながらも、想像力を膨らませて自分のイメージを形づくっ